

栃木県原水協ニュース

No 228号 2022年7月1日
 原水爆禁止栃木県協議会
 〒321-0138 宇都宮市兵庫塚3-10-30
 栃木県労連気付 電話 028-653-1401
 メールアドレス: tcgken-gensuikyo@outlook.jp

「分灯式」と「原水爆禁止国民平和大行進」福島→栃木へ引き継ぎ



広島原爆の残り火分灯式
 7月2日、さくら市の東輪寺において、「広島原爆の残り火」の分灯式が行われました。18回目を迎える今年の分灯式は、広島原爆入市被爆者の小松宏生さんのご出席をいただき、東輪寺で行われた「平和の鐘をつく集い」や原爆残り火についての過去のテレビニュース映像の視聴の後に、広島原爆の残り火が、行進に使用するランプに分灯されました。

人見住職からは「分灯を受けて以来『核兵器をなくし平和を願う火』として22年間灯し続けている。昨年発効した核兵器禁止条約に唯一の被爆国の日本が参加・批准しないのは全く残念だ。ロシアによるウクライナ侵攻、プーチン大統領による核使用の発言、憲法「改正」の動き



などをみていると、信じられないことが起きかねない。是非平和憲法を守ってほしい。皆さんから力をいただき、戦争を絶対させないという思いでこれからも残り火を灯し続けていく」とのお話をいただきました。

最後に、栃木県平和行進実行委員長の天谷氏より「厳しい国際情勢の中で、今こそ憲法9条を盾とした平和外交の時だ。私たちはもつともつと運動を積み上げて核戦争の危険を阻止していかねければならない。世界平和の実現はまず一人ひとりの心に平和の祈りをこめること。その象徴として平和行進で、この広島原爆の残り火を先頭に私

「平和の鐘をつく集い」

さくら市の東輪寺で「第18回平和の鐘をつく集い」(後援さくら市)が行われます。今年ロシアによるウクライナへの侵攻のもとで、核兵器の使用、威嚇を許さな行動を示さなければなりません。この機会に集いに参加して行動しましょう。

日時 8月6日(土)午前8時～
 8月9日(火)午前11時～
 場所 東輪寺(さくら市)
 内容:

- 東輪寺住職 人見照雄さんのお話
- 参加者との交流、うたごえなど
- 原爆パネル展 広島市立基町高校生による原爆の絵その他



ち元気がいっばい市民に核廃絶をアピールしていきたい」との決意が述べられました。

福島から栃木へ引き継ぎ
 7月2日、福島県から栃木県へ「2022年原水爆禁止国民平和大行進」(北海道↓東京コース)が引き継がれました。

午後2時から、炎天下の那須町夕狩公民館で、福島県と栃木県から計50人を超える参加で行われました。

福島の実行委員長から、コロナ禍によりスタンディング中心の行進であったとの挨拶の後、北海道から引き継がれてきたリレー横断幕が福島の代表団から栃木の代表団へと引き継がれました。

栃木県実行委員長天谷氏より「9条改憲を許さない取り組みを進展させ、平和行進を核兵器廃絶を願う人間の鎖として国民共同の平和行進として、県内網の目の行進に取り組んでいきたい」と決意が述べられました。

9日宇都宮でも新婦人宇都宮支部の人たち6人が署名行動を行いました。核兵器禁止条約の批准を求める署名12筆、憲法改悪許さない署名13筆が寄せられました。憲法のシール投票も行いました。



小山原水協6・9行動
 5月14日に小山原水協が結成されました。6月の6・9行動は9日、小山駅東口で7人が参加し、スタンディングを行いました。横断幕や雨傘に飾りをつけてアピールしました。中学生がロシアのウクライナ侵攻を見て「戦争は絶対にダメ」と署名してくれました。

当時国民学校6年生、市内から約20⁺の学童疎開のお寺で除草作業中、突然ピカッともものすごい閃光で思わず「熱いッ」とほおを手で覆った。「何ジャロね?太陽とぶつかったんよ」と、原爆投下の瞬間の様子や市内に父親を探しに行き、その時の生々しい惨状。後の被爆者として「ネバーギブアップ」の精神で被爆者差別を明るく強く生き抜いてきた体験をお聞きし、平和と核廃絶への思いを改めて強くしました。

小松宏生さんの被爆体験を聴く (事務局 小久保)
 6月25日、南那須公民館で開かれた原爆の実相と被爆体験を聴く講演会に参加してきました。

「1945年8月6日 後の記憶」と題して、小松宏生さんによる広島入市被爆体験のお話でした。

